

第三期新武蔵野クリーンセンター（仮称）施設・周辺整備協議会（第4回）
議事要録

- 日時 平成26年1月21日（火）午後7時～9時
- 場所 クリーンセンター3F 見学者ホール
- 出席 小澤紀美子会長、水谷俊博副会長、高橋豊委員、早川峻委員、村井寿夫委員、塩澤誠一郎委員、藻谷征子委員、島英二委員、押元正樹委員、興梠信子委員、木村文委員、千綿澄子委員、高石優委員、島森和子委員、越智征夫委員、山崎君枝委員、平田昭虎委員、新垣俊彦委員、金子和雄委員、木村浩委員
事務局（馬場主査他）
事業者（荏原環境プラント 今井副参事）
コンサルタント（株式会社日建設計 高津敬俊主管他）、傍聴者2名
- 欠席 高橋健一委員、岡田委員
- 配布資料 1. 前橋美術館（リノベーション事例）、2. ㈱ナカダイの取り組み、3. エコプラザの基本理念、市の施策・法令との関連・位置づけ、4. エコプラザの検討スケジュール案、5. 事例研究会講師プロフィール、6. 視察先候補案、7. エコスクールとしての土橋小学校、8. 新武蔵野クリーンセンター（仮称）廃熱活用計画・再生エネルギー活用計画、9. 環境教育のあり方、10. 準備工事アスベスト調査結果及び除去作業について

1. エコプラザ（仮称）の検討について

（1）エコプラザ（仮称）検討の参考事例

<前橋美術館について>

副会長から、コンバージョン（用途を変更し改修）の事例として、副会長が設計した前橋美術館「アーツ前橋」についてスライドにより説明。

- ・委員 街なかに美術館という空間ができたことによって様々な影響、可能性を生み出していると思う。中心市街地が衰退している中で、芸術家たちの活動の活性化だけでなく、商店街の活性化など、まちの課題を解決するような活動も生まれ始めている点は大変期待できる。エコプラザも、空間の活用をその後のどんな活動につなげるかという視点が重要と感じた。

<㈱ナカダイの取り組みについて>

事務局からスライドにより説明。

- ・委員 様々な部品からこんな芸術的なものができるのかという感じで面白かった。廃棄物から夢が出てくる感じだった。
- ・委員 もともと工業用に使われていたものを全く異なる観点で利用することで魅力あるものができるという、なるほどという感じを受けた。

（2）今後の検討課題及び検討スケジュール等

- ・資料（「エコプラザの基本理念、市の施策・法令との関連・位置づけ」「エコプラザの検討スケジュール案」、「事例研究会講師資料」、「視察先候補」）に沿って事務局から説明。

(以下、質疑)

- **委員** 大月ヒロ子さんは、今調布でクリエイティブ・リユースの展示をしている。事前のワークショップで参加者がクリエイティブ・リユースに使えるものとして街に出て探し出してきたものを整理して展示している。街に何があるかを市民が把握できるほか、消費者と商店主という立場と違った接点が生まれる面白い取り組みだ。
基本理念をつくってエコプラザの考え方を整理していく中で、資料に示されている視察や事例研究、市民団体等の状況把握などに加えて、市民側のリユース、リサイクル等に関する各種相談などの潜在的なニーズがどのくらいあるのか何らかの形で把握したい。また、クリエイティブ・リユースやアップサイクルに使えるような廃棄物がどの程度、このクリーンセンターに持ち込まれるのか把握できれば、今後の活動を考える参考になるだろう。
- **委員** クリーンセンターに持ち込まれるごみは一般廃棄物であり、同じものが大量にある産業廃棄物とは異なる。一般廃棄物なりの活用方法を探っていく必要があり、たとえば持ち込まれるごみのカタログを作るなどして、具体的なプログラムの検討につなげていければと考えている。
- **委員** 今日の資料は、エコプラザの検討スケジュールということで終わっているが、周辺整備についても文書として明記をお願いしたい。
- **委員** 今日示した資料ではエコプラザのみ記載したが、周辺整備の課題があることは当然理解しており、引き続き段階的に検討して進めていく。最終的に協議会の報告書をまとめる際には周辺整備についても意見を踏まえて記載する形としたい。
- **委員** 前橋美術館ではうまく人が来て賑わっているようだが、エコプラザにもいろんな人が来てもらいたいと考える。視察先は、まず人を集めるためにはどうしたらいいのかを念頭に考える必要がある。自分たちが行くとすればどういうエコプラザにしたらよいか、頭に描きながら視察先を決めていったらよいと思う。
- **副会長** どうすれば施設がにぎわうか、答えは一つではないだろうが、前橋の例では、これまでの美術館と同じことをしても仕方ない、まちとどうつなげるか、という考えから、できるだけ施設の外に出て行ってイベント・ワークショップやアウトリーチ的な活動を展開している。施設の中だけに捉われない広い視点でプログラムを考えている点は重要かもしれない。
- **委員** エコプラザの事業について、コンペ方式など事業方式の議論も含めて協議会の委員から提案する余地があるのか等、選択肢、自由度がどの程度あるのか知りたい。
- **委員** 建物自体が建設から30年近く経過し、設備の老朽化も進んでいるので、改修費用や耐震上どこまで利用できるかなど、コスト面との兼ね合いも見ながら総合的に検討していきたいと考えている。まず来年度、その検討のための基礎資料の準備を進めようと考えている。
- **委員** 個人の住宅を取り壊す際に出る廃棄物が非常に多く発生しており、たとえ産廃にあたりクリーンセンターと直接関係しないとしても、ごみ減量のために何らかの対応がエコプラザでできればと考えている。プロジェクトチームのようなものができるとうい。エコプラザはどういう取り組みをするのか、わかりやすい目標をはっきり決めて市民に示し、継続的にチャレンジしていく必要があると感じている。
- **委員** 地域でもエコの活動は一生懸命に取り組んでいる。ただ、たとえば中古品のリサイクルをしているシルバー人材センターでは、家具など引き取ってもらえない場合も多く、廃品・中古品をあまりたくさん集めても引き取り手がないと聞く。現状で廃棄物のうち使えるものはど

れくらいあるのか、市では現在どんな取り組みをしているのか等の実態を把握し理解していくことも重要だろう。

- **委員** シルバー人材センターでの家具のリサイクルは、現状では月に約2トン販売している。ただし約30%は売れ残り、壊して処分に回している。市の家庭ごみの減量も今は横ばいと聞いているが、クリーンセンターに運び込まれる家具についても再利用する仕掛けができればごみ減量にかなり効果的だろう。
- **会長** 資料「エコプラザの基本理念」の裏には、これまでの委員意見がまとめられている。ここを膨らませていけるように、追加意見の意見を事務局へ提出してほしい。
- 資料「エコスクールとしての土橋小学校」(小学校ベランダの太陽光パネル、発電量の見える化、耐震フレームの見せ方、風の塔など)と「月刊都市清掃」論稿について会長から説明。

2. その他

- 資料「準備工事アスベスト調査結果及び除去作業について」について事務局から説明。
- 次回協議会 2月25日(火)19時より
- 事例研究会 2月17日(月)19時より(任意参加)

以上